

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400245
法人名	社会福祉法人 年長者の里
事業所名	グループホーム三萩野
所在地	福岡県小倉北区白銀2丁目11番4号
自己評価作成日	令和1年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和1年12月20日	評価結果確定日	令和2年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から6年を迎え、地域と共に活動の場を定着させてきました。地域行事への参加はもとより、認知症の模擬訓練(黄金市場にて開催)・災害対策として施設としての役割や避難場所でもあることを地域住民へお知らせしたり、日常生活での困りごと、介護相談も受けています。認知度を高め地域との連携を深めています。ボランティア活動、認知症啓発活動と参加の場を広げています。地域活動を通じて認知症介護施設としての役割や、入居者、家族の支援につながるようになっていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設の4階にある事業所は、エレベーターホール、玄関を挟んで2ユニットのグループホームである。「身体拘束ゼロ宣言」の基、玄関の施錠はされておらず、利用者は自由な往来が可能であり、リスク管理も含め安心・安全な体制を取っている。小倉という文化の薫る社会資源等、充実した環境にあり、地域密着型事業所として地域行事や地域活動を通し、住み慣れた地域で馴染みのある生活の支援が今後も期待できる。介護人材確保の取り組みとして外国籍人材の受け入れや職員のスキルアップの支援もしている。職員は身体拘束や虐待等の研修にも参加しており、高齢者の人権・尊厳を念頭に置いた法人理念や職員モットーである「挨拶・笑顔・敬語と気配り」を大切に利用者との関わりがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで、法人の基本理念、職員のモットーを唱和している。事業所の理念、年間の事業計画を職員と共有し理解を深めて実践につなげている。	目に付きやすい場所に法人の基本理念、職員のモットーを掲示し、毎日の申し送り時に唱和している。運営方針を系列のグループホーム4事業所と足並みをそろえて運営にあたっている。入社式や辞令交付の際には、法人代表者より講話が実施される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会、市民センターの行事に参加し、地域の方との交流を行っている。	地域のサークル活動や消防訓練など、地域の活動に参加している。玄関には地域の方の作品を展示するスペースや地域交流サロンとして一部の部屋を開放している。地域の方の音楽や踊りのボランティアもある。敷地内にはプラネタリウム施設が在り、地域の児童やの利用やコンサート会場として活用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議、地域に認知症の啓発活動に参加し、認知症への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域の方の参加をいただき、要望や意見を伺い、改善点や今後の施設としての役割など意見をサービスに活かす努力をしている。	併設の小規模多機能型事業所と特別養護ホーム合同で年間6回開催し、利用者や家族、地域の様々な代表者の方々、包括センター職員等、14名程の参加があり事業所の取り組みや要望・意見等が出されている。議事録は誰もが閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	予防センター、包括センター、介護保険課等に相談やサービスの在り方など意見を伺い、協力関係を築くよう努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム事業所の在り方を理解し、入居者が自由な暮らしができるように環境を整えている。身体拘束のないケアの実践に取り組むように定例会で話し合っている。	年4回の身体拘束適正化委員会と毎月の定例会議で身体拘束における具体的な課題や対応等について話し合っている。玄関の施錠もなく利用者の行動を制限しない「身体拘束ゼロ宣言」を基本にしている。行政の出前講座で虐待や身体拘束について学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が高齢者虐待防止について学び、ストレスをためないケアの在り方など話し合っている。研修会に参加、事例を通して話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者もおられます。パンフレットを常備し、職員が学べるように置いている。家族には契約時に説明を行っている。	現在、成年後見制度を利用されている利用者もおられます。成年後見制度について入居時にパンフレット等を用いて説明をしている。研修参加や伝達の実施、事例の共有等を通じて、職員が学ぶ場面を確保している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には時間をかけ、重要事項説明書、契約書の内容を理解して頂けるように対応している、不明な点がないか、その都度声をかけし伺っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加や、意見箱の設置で要望や意見が頂けるように工夫している。定期的な委員会の開催で、改善に向けて検討を重ねている。	法人としてオンブズマン制度を導入しており、アンケート用紙や意見箱を設置する他、満足度調査も実施されている。内容や結果は開示し、オンブズマンの指摘により、食事サービスの内容が改善されている。屋上でくつろげるベンチやプランター花壇づくり等、家族の要望が反映されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会で、職員から意見や要望、業務に関する提案など話し合っている。	法人全体の定例会の前には、業務に関して自由書き込みによる職員の意見や要望を把握して提案している。1日の勤務体制の見直し等に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行政の通達などで改善が必要な事柄は迅速に対応している。各自の条件に添ったように職場環境を整えている。個々のやりがいやスキルアップも支援している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢、国籍に捉われずに職員を採用している、生活スタイルや体調を配慮し職員がそれぞれの能力で協力し合って働きやすいよう時間や様々な働き方を支援している。働く委職員の権利を保障しスキルアップも支援している。	性別、年齢、国籍、資格を問わず、広く採用するようにしている。外国籍の職員も働いており、就労の為の手続きや卒業式参加に向けた支援をしている。また、法人内で初任者研修や実践者研修を開催し、資格取得のための支援をしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人で「高齢者の人権と尊厳を護る職員声明」を基本理念に掲げ啓発活動に取り組んでいる。	法人で「高齢者の人権と尊厳を護る職員声明」を基本理念に掲げ、高齢者虐待や身体拘束、マナーや法令順守等、定期的に研修を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の介護技術や就労状況に合わせ指導している、個人の目標に合わせ研修を受ける機会、スキルアップを支援している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームにおいて定期的に情報交換を行っている。認知症に関する勉強会、ネットワーク活動への参加し幅広く交流し、サービス向上への情報収集を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせ、見学時に不安なこと、困っている事を伺い不安がないように説明をしている。契約前後も家族や本人の要望や意見を聴き環境改善を行い、関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が不安に感じている事への改善や取り組みの見直しを行い関係作りに努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の行動や生活状況で必要なサービスを検討し対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活や認知症状を理解し、できることへの支援を含め、ともに生活をするうえでよい関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを知り理解を深めるように、家族の言葉に心を傾け思いを深める、入居者を支えていくうえで家族のきずなを大切にしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活の場と環境を近づけ、これからの馴染みの関係を築く、親しい人が気軽に立ち寄れる環境の整備を行っている。	家族との連携も図りながら、近隣の市場や馴染みの場所へのドライブに出かけたりしている。面会は自由で、個室に固定電話設置している方もおられる。今後、年賀状や手紙を出す支援を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わり合いやコミュニケーションを大切に、横で見守り、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても介護についての手続きや相談に応じている、必要なサービスの継続は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の要望が中心となりがちだが、入居者の様子や暮らしぶりを見ながら、思いや意向を検討している。	センター方式の活用や、家族との連絡を取りながら、日頃の会話や暮らしの様子などから思いや意向の把握に努めている。「知ってっちゃんノート」を作成し、今後は家族の協力に向けた働きかけも行う予定である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から、暮らしぶりや医療の必要性、これまでのサービスの支援を伺い経過の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族から聴き取りを行い、入居時に24時間シートなどを活用し状況の把握に努めている。その都度、入居者から話を伺い現状の把握を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、担当医、訪問看護より、心身の状況を把握しケアに関する課題の整理を行い、意見交換を行い、現状に即して介護計画になるように努力している。	計画作成担当者が毎月の支援経過を作成している。モニタリングは6か月ごとに実施し職員間で共有し、関係者と意見交換をし、現状に即した介護計画につなげている。居室担当については今後の検討としている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過や日々の記録で入居者の生活ぶりの情報を共有し、介護計画などに活かしている。実践し、見直しが必要な場合は検討を重ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なサービスは家族と話し合い、サービスにつなげている。柔軟な姿勢でかたちに捉われない支援やサービスの検討をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の協力を得ながら地域での暮らしが豊かになるように努めている。入居者ができる範囲での楽しみを見出すようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の必要な医療への支援を、主治医に相談し、受診がスムーズにできるように連携している。	かかりつけ医は協力医療機関が担っており、訪問診療で月1回往診があり、事業所より事前に情報提供をしている。訪問歯科もある。他科受診については家族の協力を得ての支援もある。週1回の訪問看護による医療連携もされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録に情報を記入し、指示を受けている、必要な情報や相談を密に行い、適切な対応ができるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療受診や入院時に付き添いや面会に行き、状態の把握に努めている。病院が必要な情報をすぐに提供できるように整備し、主治医との連携も取れるように対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や、入院等で入居者の身体状況に変化があるときに家族に意向を伺い重度化や終末期への説明を行い、家族間で話し合ったことへの支援をできるだけ行えるように検討している。	重度化及び看取りに関する指針を作成しており、入居時や身体状況に変化がある時に家族に説明し意向を確認している。また、良質な介護サービスを提供する取組として褥瘡管理マニュアルも作成している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会で事故や救急時の対応方法を確認している、マニュアル、救急連絡先などの把握している。事例を通して対応方法を伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	決められた消防訓練、小倉北連絡会への参加、地域や事業での体制を確認し地域との協力体制、施設の役割の理解をしている。	地区の他施設との連携を図り、相互に訓練参加を実施しており、隣接する大型集合住宅より地域住民の参加もある。地域の防災訓練には、消防や警察も含め、150名程の参加がある。各種災害対応マニュアルを整備し、水害訓練実施や防災センターの地震体験等の実績がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本理念、職員のモットーを基本に尊厳のある支援を心がけている。マナー研修への参加、言葉使いなど定例会においても尊厳とプライバシーを損ねない対応を心がけている。	法人として、言葉使いやマナーに関する研修に取り組んでいる。各居室はドアを開けても直接室内が見えないようにカーテンが施されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で発する言葉に本人や家族の思いがある。表情や言動を大切に自己決定ができる促しや支援を心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の言葉を聴き、その日の過ごし方を支援している。個々のペースで生活して頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日に何度も着替えて楽しんでいる方がいます、自分に合った、衣服で毎日をその人らしく過ごされるよ支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のお手伝いが難しくなり、食べる楽しみを大切に器や盛り付けで食欲を促してる。	法人厨房にて調理され、事業所内キッチンで盛り付け配膳している。パン食等、セレクト食の日を設けたり、誕生日の夕食(鰻・うどん等)や出前(寿司)を利用する機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な食事、水分を確保できるように支援している、飲み物も好みのものが飲めたり、嗜好品を家族にお願いし、食欲が減退しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施、歯磨き、液体歯磨きなども使用している。訪問歯科の指導受け清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握しトイレ誘導を行っている。日中は布下着とパットで対応し、肌トラブルにも注意しながら支援している。	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握している。肌のトラブルにも注意を払い、できるだけ布パンツとパットで対応できるように、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携で、排便のリズムが取れるように支援している。食事、水分、運動を中心に自然な排便を促すように工夫している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本午後入浴だが、曜日や時間はあらかじめ本人と話し合っている。また、必要時はできるかぎり希望に沿うように入浴支援を行っている。	浴場は広く大きな暖房がある。入浴は利用者の希望に沿いながら週3回は確保できるように支援している。利用者によっては職員3名での対応を行い、出来る限り湯船に浸かれるよう支援している。菖蒲湯やゆず湯等、季節観のある工夫もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間に安心して眠ることができるように環境も整えている。季節に応じた寝具、部屋の明かりの調整など対応を心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方での薬情報を個人ごとにまとめ薬の効力や、副作用の確認を行い、訪問診療時に主治医へ状態の報告、薬の見直しも検討している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人からしたいことや趣味などを伺っている。家族の協力を得ながら、楽しみ事で気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の支援は家族に相談しながら支援している。季節行事への参加も体調に無理がないように考慮し支援している。	家族の許可を取り、利用者の体調も気遣い季節の花見や買い物に出かける事もある。天気の良い日には駐車場での青空体操に参加したり、屋上でプランター花壇を見たり、周りの景色を見ながら外気浴も楽しんでおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は困難なため、家族が管理されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からはがきは来ている、お正月の年賀状は家族が持参し、書いている方がいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が快適に過ごせるように工夫している。音楽やラジオ、テレビを楽しめるように工夫している。季節を感じられるように努めている。	廊下は広く、ゆったりとした空間を感じられる。ところどころにソファを配置し、くつろげるようにしている。壁には季節感のある壁飾りが施されている。屋上や1階のロビー等、複合施設としてのメリットも活用できる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各スペースに椅子を置き、くつろげる環境を作っている、思い思いに家族と過ごして頂くようにユニット間で行き来できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にあったものや、好きなものを飾ったりして思い思いの部屋にしている。本人、家族がゆっくりくつろげるように、家族にも協力をお願いしている。	居室には、自宅にあった使い慣れた馴染みの家具を配置したり、家族による飾り物等を施したり、それぞれの生活空間を大切にしている。居室では静かに読書を楽しんでおられる方もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の場がグループホームに変わっても覚えて、わかること、できることがたくさんあります。認知症になっても自立した生活がグループホームの中で実現しています。もっとわかるように環境の整備を心がけています。		